

コロナ禍における糸魚川市フォッサマグナ ミュージアムの活動

糸魚川市フォッサマグナミュージアム 学芸員 小河原 孝彦

1. はじめに

新潟県糸魚川市は、国石に認定された宝石「ヒスイ」や、日本列島を東西に分断する大断層である糸魚川 - 静岡構造線など、地質資源に恵まれた町である。2009年には、日本初の世界ジオパークに認定され、地質資源を活かした地域開発を実践している。

糸魚川市フォッサマグナミュージアムは、糸魚川ユネスコ世界ジオパークの中核施設であり、1994年に開館し、2015年にリニューアルした糸魚川市教育委員会所管の地質系博物館である。ミュージアムの主要な展示物は糸魚川産のヒスイ、石灰岩の化石、糸魚川 - 静岡構造線と日本列島の成立の説明であり、2019年度は90,270人の来館者があった。

人口4万人の糸魚川市にある地方博物館として、企画展などの展示活動、ジオ講演会やジオツアーなど市民への普及活動、ヒスイ中の新鉱物の研究（糸魚川石の発見等）や新たな資料の発掘など、収集・研究・教育普及活動の3本柱を軸に活動を推進している。

2020年に入ってからコロナ禍の問題は、フォッサマグナミュージアムの運営にも影響し、2020年度の入込客数は前年比49.4%(4月～11月)で推移している(図1)。そうした情勢下において、フォッサマグナミュージアムでは、①お客様が安心して来館できるコロナ予防・三密対策、②館内のバーチャルツアーや野外展示物の見どころを紹介するホームページ整備、③Zoomなどを利用した遠隔での博物館紹介、などの新たな取組みを進めてきたことからその内容を紹介したい。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
2019年	9,330	14,800	5,130	7,890	17,480	12,270	6,550	7,120	80,570
2020年	840	0	2,600	5,500	9,450	7,130	7,240	7,030	39,790
前年度比	9%	0%	51%	70%	54%	58%	111%	99%	49%

図1 博物館入込客数の推移

2. フォッサマグナミュージアムにおけるコロナ予防・三密対策

糸魚川市では、2020年2月28日に新型コロナウイルス対策本部を設置し対応に当たってきた。新潟県では2月29日に新潟市において初めての感染者が発表され、糸魚川市において

も7月11日に1名の感染者が判明した。それに伴い、博物館においても三密を避けるコロナ対策が喫緊の課題となった。

フォッサマグナミュージアムでは、7都府県からの入館禁止(4月8日～4月24日)、入館時の検温と記帳(4月8日～6月18日・検温については継続中)、感染拡大を受けての臨時休館(4月25日～5月30日)、新潟県民に限定した入館規制(6月1日～6月18日)、石の鑑定サービスの休止(3月9日～継続中)、化石の谷の利用休止(4月1日～6月30日)などの対策を実施してきた。

入館時の検温については、当初は職員による非接触式体温計による1名ごとの検温を実施していた。この手法では、検温に手間がかかり、団体客や夏休み期間中などの混雑が懸念されていた。そのため、フォッサマグナミュージアムでは、文化施設の感染症防止対策事業(補助金)を利用し、AIを搭載した自動検温装置を導入した(図2)。これは、入館者の体温を自動で測定し、マスクの着用が無い場合は注意を呼びかけるなどの機能が搭載されており、団体客が一気に入館した場合でも連続して測定が可能であるなど、入館時の三密対策に効果を発揮している。



図2 自動検温装置

石の鑑定は、博物館独自の普及活動として来館者が持込む石に対して一人5個まで無料で石の名前を鑑定し、石の名前の書いたラベルを手渡す活動である。石の鑑定の利用者は一般観光客が多く、糸魚川の海岸で採集した小石を持込んでヒスイであるか判定する、夏休みの自由研究などで石の標本を作製するために石の名前を聞くなどの動機で利用している。2019年度は2万人を越える利用者があり、全国科学博物館活動等助成事業を利用した石の鑑定士制度もスタートさせていた。

コロナ禍での三密対策として、石の鑑定が問題になった点は、ゴールデンウィークや夏休み期間中に40-50名が鑑定待ちで並ぶなど混雑が発生していたことである。博物館としてこのような混雑は回避する必要があり、整理券の配布やインターネットや電話での事前予約など検討はしたが実現には至らず、2021年3月末までの休止が決定している。

そのため、フォッサマグナミュージアムでは、石の鑑定の代替策として糸魚川市観光協会が作成している石の標本キット「ひろっこ」を利用した野外鑑定教室を夏休み期間中に実施した

(図3)。これは、1回10名限定とし、市内の海岸で学芸員指導の下で石の標本を作ることで夏休みの自由研究の助けとすることを主な目的としている。合計16回開催され、市内外から122名の参加者があり、石の鑑定の代替策として一定の効果があつたと考えている。



図3 石の標本キット「ひろっこ」

3. 館内のバーチャルツアーや野外展示物の見どころを紹介するホームページ整備

感染拡大を受けての臨時休館が決定した前後から、休館時にどのように博物館を楽しむかということが課題となった。フォッサマグナミュージアムでは、糸魚川ジオパーク協議会の協力で2019年秋に北海道地図株式会社による3Dモデル撮影カメラ「Matterport」による展示室撮影とバーチャルツアー化を実施し、ホームページで公開していた(図4)。博物館の休館に伴い、ホームページのトップページに館内のバーチャルツアーを表示するように変更し、休館中も博物館内をバーチャルツアーで見学できるように配慮した。また、学芸員が出演する動画を地元ケーブルテレビ向けに撮影しホームページ上に掲載している。



図4 博物館内のバーチャルツアー

博物館は室内のため三密になる危険性があるなど、観光客に避けられることが指摘されていた。そのため、糸魚川ジオパーク協議会と協力し、野外で楽しむ糸魚川ユネスコ世界ジオパークのホームページを開設した。ここでは、“Stay Home”家で楽しむ糸魚川観光やフォッサマグナミュージアムのバーチャルツアー紹介に加えて、博物館の屋外にある見どころを紹介するページを作成した(図5)。屋外には、あまり知られていない見どころがあり、これを紹介することで博物館が閉館になっていても三密を避けながら楽しむことができる。博物館周辺にこのホームページへのリンクがかかれた看板を設置し、訪れた観光客が気軽にアクセスできるように配慮した。



図5 野外で楽しむ糸魚川ジオパークのホームページ

4. Zoom などを利用した新たな博物館紹介

コロナ禍以降、Zoom など Web 会議システムの利用が急速に発展している。フォッサマグナミュージアムでは、10月18日に新潟大学理学部の大学祭で、11月21日に日本ジオパークネットワーク中部ブロック大会での Zoom を利用したオンラインでの館内バーチャルツアーを実施している(図6)。これは、スマートフォンとジンバルを利用し携帯回線で Zoom の会議室と接



図6 オンラインで開催された中部ブロック大会

続することで館内の案内を実現した。中部ブロック大会では、博物館内の案内だけではなく、室内実験のリアルタイム配信や、事前に撮影していた動画の放送も実施している。

日本ジオパーク関係者では、バーチャルツアーへの挑戦が増加しており萩ジオパークなど定期的にバーチャルツアーを実施する地域もある。バーチャルツアーの利点は、その地域に行くことなく体験できることであり、今までのツアーなど大人数での見学が難しい場所に関しても、バーチャルツアーであれば見学することができる可能性を秘めている。野外の場合は携帯回線が圏外になる可能性があるなど課題はあるが、コロナ禍後も Zoom などを利用した活動は継続していると考えられ、フォッサマグナミュージアムとしても対応を迫られている。

5. まとめ

コロナ禍は、フォッサマグナミュージアムやジオパークの活動に多くの変革を迫ることとなった。

感染対策として導入した AI を搭載した自動検温装置は、団体客に対する検温の手間を省けるなど有効に活用できており、消毒液やアクリルパネルと合わせてその導入には文化施設の感染症防止対策事業（補助金）が大変有効であった。

石の鑑定については、三密を避けながら実施する目処が立たない状態にあり、オンライン予約システムの導入などを検討したい。その代替策として実施した野外鑑定教室については多くの参加者があり 2021 年も継続して実施していきたい。

ホームページを利用したバーチャルツアーや屋外の見どころ紹介については、特に反響が大きかった。日本ジオパークネットワークや産業技術総合研究所（産総研）のホームページにもリンクし、おうち需要の喚起に成功している。

コロナ禍以前は Zoom など Web 会議システムを利用することはほとんどなかったが、オンラインでのバーチャルツアーの急速な普及に伴い、フォッサマグナミュージアムでも実践を進めている。今まで体験教育旅行でフォッサマグナミュージアムを訪れていた学校には、代替案としてオンラインでの講義を希望する団体もあり、Zoom など Web 会議システムをどれだけ活用出来るかが今後の課題である。

博物館の入込客数は 10 月・11 月に増加しているが、これは新潟県内を中心とした隣県からの体験教育旅行での利用が大きい。これは、コロナ禍の影響で首都圏への修学旅行が中止となった代替であると考えられるが、この利用を次年度にどう繋げられるかが、2021 年以降の博物館の入込客数に大きく影響していくと考えられる。

